

国産シングルユース無菌コネクタ PC02A



接続後のコネクタ

特徴

- 1 日本国内工場で製造、Class7環境にて組立
- 2 非滅菌環境下においても無菌接続可能
- 3 ジェンダーレスのため、型式の区別不要
- 4 USP classVI、ADCF など
各種レギュレーション対応

仕様

- 材質：Si(接液部)、PC、PP
- チューブ径：内径 2mm
(他サイズはご相談ください)
- 圧力範囲：0.1MPa 以下
- 耐性：ガンマ線照射、
凍結(-80°C)、オートクレーブ滅菌

藤嶋昭 東京大学特別名誉教授・東京理科大学名誉教授 監修

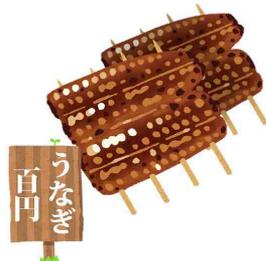
発明・発見
シリーズ
002

ニホンウナギは
西マリアナ生まれ

2009年5月、東京大学教授だった塚本勝巳の研究チームは、フィリピンとマリアナ諸島の間の西マリアナ海嶺南端部でウナギの卵を大量に採取し、1930年代から始まった産卵場所探しに終止符を打った。なぜそんなに時間がかかったのか。川に(海にも)ウナギはいるものの卵は持っておらず、ウナギがどこで生まれるのか太古からの謎だった。成熟したウナギが大挙して沖へ向かう姿は漁船でも目撃され、沖合で産卵することは推測されていた。タグをつけて追跡しても昼は深海を、夜は表層付近を移動することは分かったが、通信が途絶え産卵場所の特定には至らなかった。ウナギは成熟すると目が大きくなり、消化器官が退化し、全国各地から数ヶ月をかけて何も食べず2500キロも泳いで、新月の夜、深海200~300mの1辺10m立方という、ピンポイントの時間と空間に集結し、放卵、放精していたのだ。卵は1.5日後に孵化し、稚魚には遊泳力がないので、海流に乗って移動する。網を引いても場所と日時がピンポイントで合わなければ採取できないのだ。

産卵のためにウナギが集結する確たる映像はまだ撮られていない。産卵後親ウナギは解散し、また次の新月の夜に数十キロ離れた場所でランデブーする。1匹のウナギは数百万個の卵を産む。養殖コストが下がれば、鰻丼が100円で食べられる日が来るのも、夢ではないのかもしれない。

参考文献：塚本勝巳、ウナギ 大回遊の謎、PHPサイエンス・ワールド新書 58



開発・製造

ABLE エイブル株式会社

www.able-biott.co.jp

配信・お問い合わせ
フォーム



お問い合わせは、株式会社バイオットまで

販売元

Biott 株式会社バイオット

本社

〒162-0812 東京都新宿区西五軒町 6-10

TEL : 03-3260-0415 (代)

FAX : 03-3260-0407

大阪営業所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 5-1-3

TEL : 06-6398-1260

FAX : 06-6398-1261